

実証経済学からみるジェンダー格差

牧野百恵

日本貿易振興機構アジア経済研究所
momoe_makino@ide.go.jp

March 21, 2025

- 1 イントロダクション
- 2 因果推論
- 3 思い込み・社会規範の影響に関する実証研究
- 4 ロールモデルに関する実証研究の例
- 5 2023年ノーベル経済学賞クラウディア・ゴールドディンの研究
- 6 おわりに

イントロダクション

- 男女賃金格差 ▶ fig1

- ☞ OECD 統計はフルタイム収入 (=earnings)

- ☞ 賃金 (=wage) は、経済学では時給を指すことが多い

- 広義: フルタイム勤労所得

- 狭義: 同一労働同一賃金

賃金格差の決定要因

- 教育水準
- 職歴
- 差別
 - ☞ 好みによる差別
 - ☞ 統計的差別
- 職種・産業の違い¹
 - ☞ STEM 分野 [▶ fig2](#)
- 柔軟な働き方を望むか？
- 心理的な理由
 - ☞ 競争を好むか？
 - ☞ 交渉を好むか？

ミクロ経済学実証研究とエビデンス

- エビデンス (根拠) とは？
 - ☞ 統計学を使って因果関係を厳密に示した研究結果
 - ☞ 相関関係との違いに注意!
 - ☞ 逆の因果関係, 第三の本当の要因
- 因果推論とは？
 - ☞ 反実仮想

因果推論の方法

- ランダム化比較試験 (RCT: Randomized Controlled Trial)
 - ☞ e.g. Banerjee and Duflo. 2011. *Poor Economics*
邦訳は『貧乏人の経済学』(みすず書房 2012年)
 - ☞ 被験者を**処置群**, **対照群**にランダムに分ける
 - ⇒ **処置群**のみに介入 [▶ fig3](#)
- 自然実験 [▶ fig4](#)

因果推論にこだわるわけ

- エビデンスに基づく政策立案 (EBPM: Evidence Based Policy Making)
 - ☞ 「○○べき」といった主義・信条はさておき
 - ☞ 本当の問題解決のためにはどうしたらよいか, 思い付きでなく科学的知見を提供
- 根拠に乏しい解釈でなく
 - ☞ ジェンダー平等について理解を深めることができる
- 「途上国研究の最先端」コラム [▶ fig5](#)
 - ☞ さらに一般向けに『**ジェンダー格差**』(2023年, 中公新書)

ジェンダーに関する思い込み

- **思い込み**の例
 - ☞ 男性が家族を養うべき
 - ☞ 出世は男性が優先されるべき
 - ☞ 育児は母親がすべきなど個人の信念
- 個人の思い込みが社会的ルールとなれば**社会規範**
- 思い込みに関する調査 [▶ fig6](#)
- **思い込み**の測り方
 - ☞ 回答者に直接聞く. ただし「**社会的望ましさのバイアス**」
 - ☞ 無意識の思い込みを測る. **IATテスト**, List experiment

女性は家庭, 男性は外

- 社会規範「**女性は家庭**」の影響力の大きさ
 - ☞ 例: 規範が弱い地域 (例: 北欧諸国) では,
教育水準の高い女性ほど結婚し出産²
- 女性の社会進出が**少子化**を止めるかもしれない
 - ☞ **女性の社会進出が遅れている国でより深刻** ▶ fig7

女の子は数学が苦手？ ³

▶ fig8

- 背景: イタリアの中学校
 - ☞ 8年生(中学校最終学年)で国語と数学のテスト
 - ☞ 修了後は、学問校か、技術専門校か、職業訓練校か、進路を選択
 - ☞ 教師は家族にある進路を薦めるが、強制力なし
 - ☞ 進路に高校側からのセレクションなし。生徒と家族の選択による。
- 自然実験: 生徒の数学担任はランダムに決まる
- 結果: 数学担任教師に女子は数学が苦手だという思い込みが強いと、女子の数学の成績↓, 学問校(=よい進路)選択↓
- インプリケーション: 社会や文化によってかたちづけられた思い込みが所得格差を生み出しうる

親は息子に競争を強いる⁴

- 背景: ノルウェーの中学校
 - ☞ (数学の) 成績は女子の方がいいが、男子の方がより高所得につながりやすい理系専攻をする
- ラボ実験: 10年生に対する実験
 - ☞ タスクは 2桁 × 4 の足し算を 3分間
- 報酬を親と子がお互いに分からないよう選ぶ
 - (i) 絶対評価 (正答ごと 5NOK) か
 - (ii) 相対評価 = 競争的 (勝てば 3倍)
- 結果:
 - ☞ 親は息子に対して競争的な選択をする (差は 28%)
 - ☞ 子どもの競争心男女差 < 親による思い込み
 - ☞ 親の選択が競争的だと、子どもはキャリア進路を選択
 - ☞ 父親の選択が子どもの進路選択に影響
- インプリケーション: 親の思い込みを通じて競争心、格差は再生産されうる

女性は競争が苦手？⁵

- 背景: **男系社会** (タンザニアのマサイ族) と **女系社会** (インドのカーシ族) の比較
- **ラボ実験**: テニスボールを投げて 3m 先のバケツに入れる ×10 回
- 報酬を選ぶ
 - (i) 絶対評価 (成功ごと約 0.5 ドル) か
 - (ii) 相対評価 = **競争的** (勝てば 3 倍)
- 結果:
 - ☞ マサイ族男性は女性より 2 倍競争を好む
 - ☞ カーシ族女性は男性より 1.4 倍競争を好む (マサイ族男性と比べても)
- インプリケーション: 競争心は生まれつきではない

女性は交渉が好きでない？⁶

- 背景: 2011 年米ウイスコンシン州で教員の賃金交渉が自由化
 - ☞ 賃金テーブル廃止 or どの等級かの交渉可
- 自然実験: 変更時期が学区によって多少ずれた
- 結果: 5 年後格差は年 440 ドルに拡大
 - ☞ 教員の資質や交渉力が理由ではない
 - ☞ 教員が若いほど、交渉相手が男性である場合のみ格差
 - ☞ 賃金に関する交渉のみ
- インプリケーション: 背景には社会規範 (e.g., 若い女性が年配男性相手に賃金交渉するのは好ましくない) があるのでは？

制度が整えば解決するわけではない⁷

- 背景: アメリカの大学のテニユア (終身雇用保障) 制度の時間制限
- 自然実験: 研究者に子どもが生まれたら, 男性女性を問わず, テニユアの時効を伸ばす
 - ☞ 実質的な育児休業制度導入
- 結果: 制度を利用した男性研究者のキャリアに有利に
- 理由: 育児休暇をとった女性研究者は, 本当に育児に専念. 男性研究者は, 実際は育児を行う代わりに研究に専念
- インプリケーション: 法や企業内の制度の改正だけでは, 女性にとって改悪となりうる
- 規範「育児は女性がすべき」に働きかける必要あり

理系分野などのルールモデル

- アメリカ軍士官学校の例
- 特徴: 女性が極端に少ない職種
- 例 1⁸
 - ☞ 自然実験: 空軍士官学校の担当教官はランダムに決まる
 - ☞ 結果: STEM 分野の担当教官が女性だと, 女子学生の STEM 専攻確率 ↑
- 例 2⁹
 - ☞ 自然実験: 陸軍士官学校 (ウエスト・ポイント) の指導教官はランダムに決まる
 - ☞ 結果: 女子学生は指導教官が女性だと同じ専攻を選ぶ傾向に

政治家のロールモデル¹⁰

- 背景: インド農村の村長選挙. 村長には圧倒的に男性が多い
- RCT: 1998年と2003年, ランダムに選んだ1/3の処置村に女性の村長を割当 (クォータ制).
- 結果: 女性とその家族のアスピレーション ↑
 - ☞ 希望する結婚年齢 ↑
 - ☞ 高い教育水準が必要な職種への就業意欲 ↑
 - ☞ 教育水準 ↑, 家事労働時間 ↓
- インプリケーション: 「女性は政治家に向いていない」といった偏見を払拭させる重要性
 - ☞ 次世代の女子たちに自分でもできるという姿を見せることの重要性

クォータ制の考察

- クォータ制の是非
- 反対意見:
 - ☞ 質の低下 ⇒ **ラボ実験**では否定=質の低下はない
 - ☞ 「逆差別」 ⇒ 社会規範・思い込みの影響 & 競争の条件は同じなのか？
 - ☞ (すでにキャリアを築いた女性から) 下駄をはかせてもらったと色眼鏡で見られる ⇒ 開拓者としてロールモデルの役割& 正当な評価を！

ゴールドインの研究

- 受賞理由: 経済史と労働経済学における貢献
- 『なぜ男女の賃金に格差があるのか』(ゴールドイン, 2023年)
 - ☞ 差別の存在¹¹
 - ☞ 柔軟な働き方ができるかどうか¹²
- MBAホルダー, 弁護士は柔軟な働き方が難しい
 - ☞ チャイルドペナルティあり. 賃金格差が開く.
- 薬剤師は柔軟な働き方が可能
 - ☞ 属人的な要素を排除. 処方箋のシステム化など. 賃金格差なし.
- 日本の雇用慣行にも重要なインプリケーション

おわりに

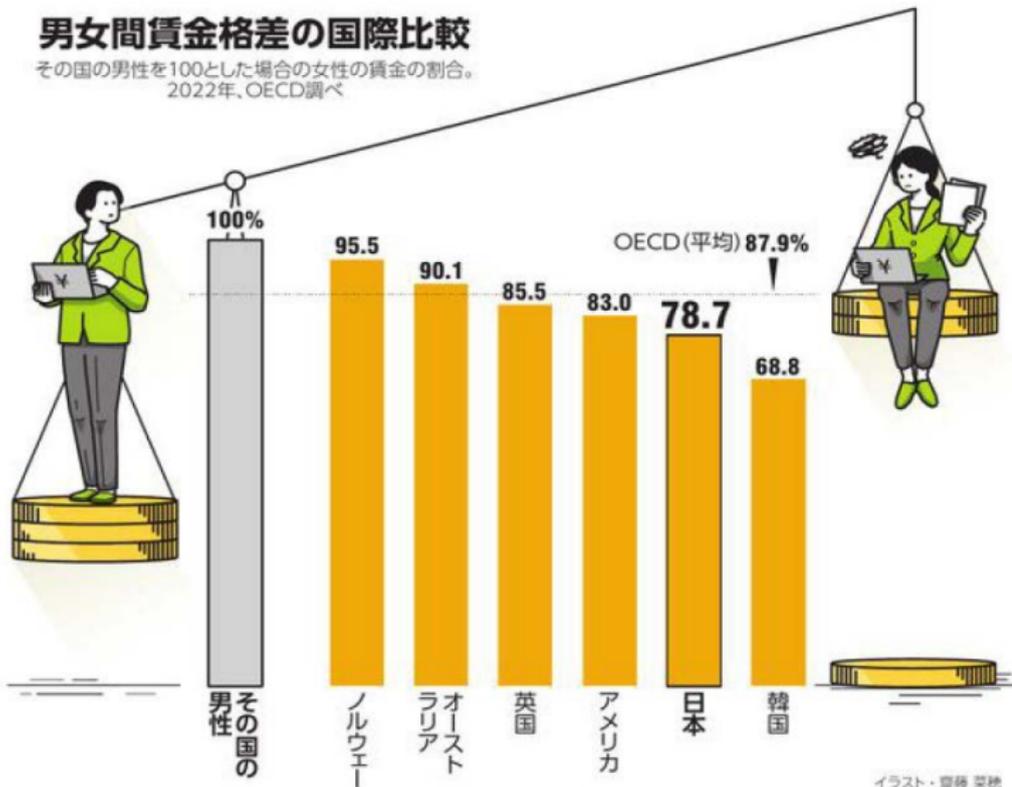
- 「女性が3歳までは子どもの世話をすべき」「男性が家族を養うべき」といった社会規範そのものが変化したら、日本の少子化対策には有効かもしれない
- **社会規範・思い込み**の影響力は大きい
 - ☞ 親や教師の**思い込み**が格差を再生産しかねない
 - ☞ **思い込み**は競争や交渉にも影響
- **ロールモデル**が果たす役割
 - ☞ **思い込み**を問い直す
- **柔軟な働き方**は日本でももっと追求できるのでは？

References

- 1 Blau, Francine D., and Lawrence M. Kahn. 2017. 'The Gender Wage Gap: Extent, Trends, and Explanations.' *Journal of Economic Literature* 55(3):789–865.
- 2 Bertrand, Marianne, Emir Kamenica, and Jessica Pan. 2015. 'Gender Identity and Relative Income within Households', *Quarterly Journal of Economics* 130(2):571–614.
- 3 Carlana, Michela. 2019. 'Implicit Stereotypes: Evidence from Teachers' Gender Bias.' *Quarterly Journal of Economics* 134(3):1163–1224.
- 4 Tungodden, Jonas, and Alexander Willén. 2023. 'When Parents Decide: Gender Differences in Competitiveness.' *Journal of Political Economy* 131(3):751–801.
- 5 Gneezy, Uri, Kenneth L Leonard, and John A List. 2009. 'Gender Differences in Competition: Evidence from a Matrilineal and a Patriarchal Society.' *Econometrica* 77(5):1637–64.
- 6 Biasi, Barbara, and Heather Sarsons. 2022. 'Flexible Wages, Bargaining, and the Gender Gap.' *Quarterly Journal of Economics* 137(1):215–66.
- 7 Antecol, Heather, Kelly Bedard, and Jenna Stearns. 2018. 'Equal but Inequitable: Who Benefits from Gender-Neutral Tenure Clock Stopping Policies?', *American Economic Review* 108(9): 2420–41.
- 8 Carrell, Scott E., Marianne E. Page, and James E. West. 2010. 'Sex and Science: How Professor Gender Perpetuates the Gender Gap.' *Quarterly Journal of Economics* 125(3):1101–44.
- 9 Kofoed, Michael S., and Elizabeth McGovney. 2019. 'The Effect of Same-Gender or Same-Race Role Models on Occupation Choice: Evidence from Randomly Assigned Mentors at West Point.' *Journal of Human Resources* 54(2):430–67.
- 10 Beaman, Lori, Esther Duflo, Rohini Pande, and Petia Topalova. 2012. 'Female Leadership Raises Aspirations and Educational Attainment for Girls: A Policy Experiment in India.' *Science* 335(6068):582–86.
- 11 Goldin, Claudia, and Cecilia Rouse. 2000. 'Orchestrating Impartiality: The Impact of 'Blind' Auditions on Female Musicians', *American Economic Review* 90(4):715–741.
- 12 Goldin, Claudia. 2014. 'A Grand Gender Convergence: Its Last Chapter', *American Economic Review* 104(4):1091–1119.

男女間賃金格差の国際比較

その国の男性を100とした場合の女性の賃金の割合。
2022年、OECD調べ

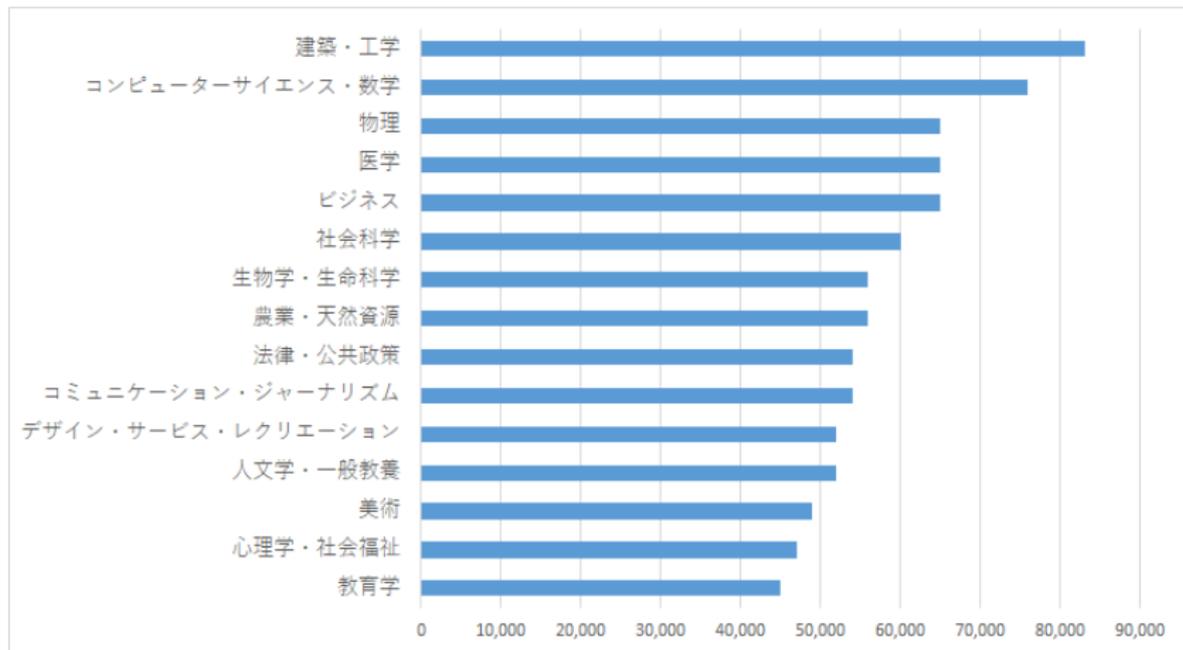


イラスト・齋藤 菜穂

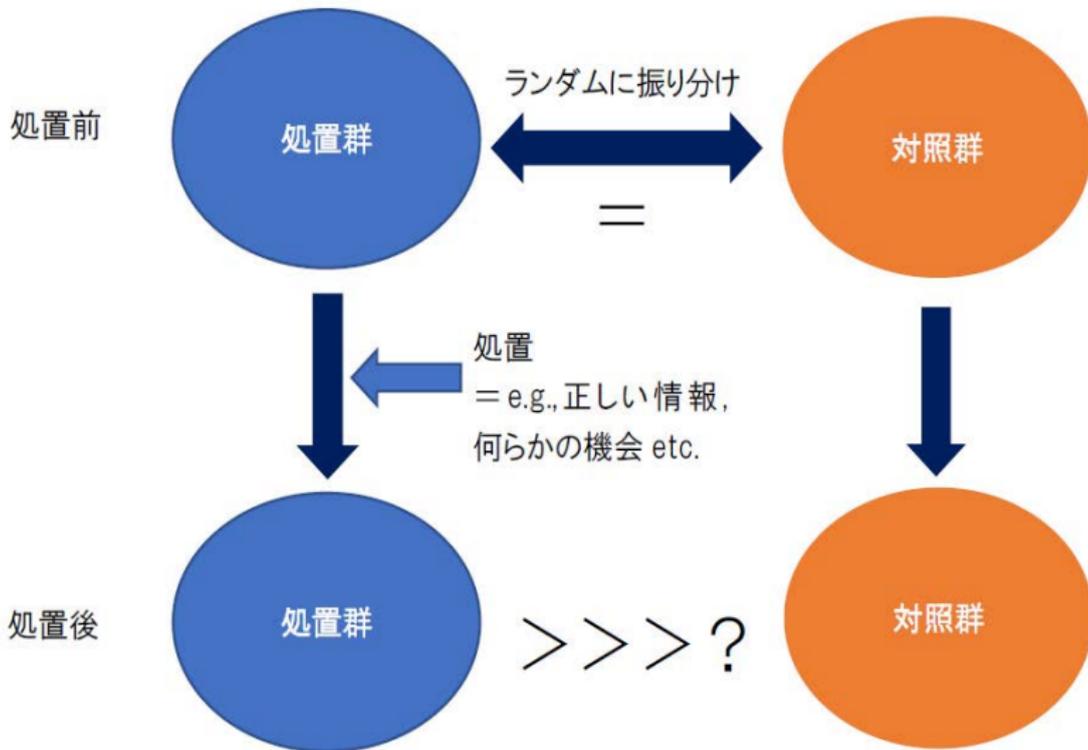
出所: 朝日新聞 2024年1月30日 論説「男女の賃金格差を考える」

▶ go back

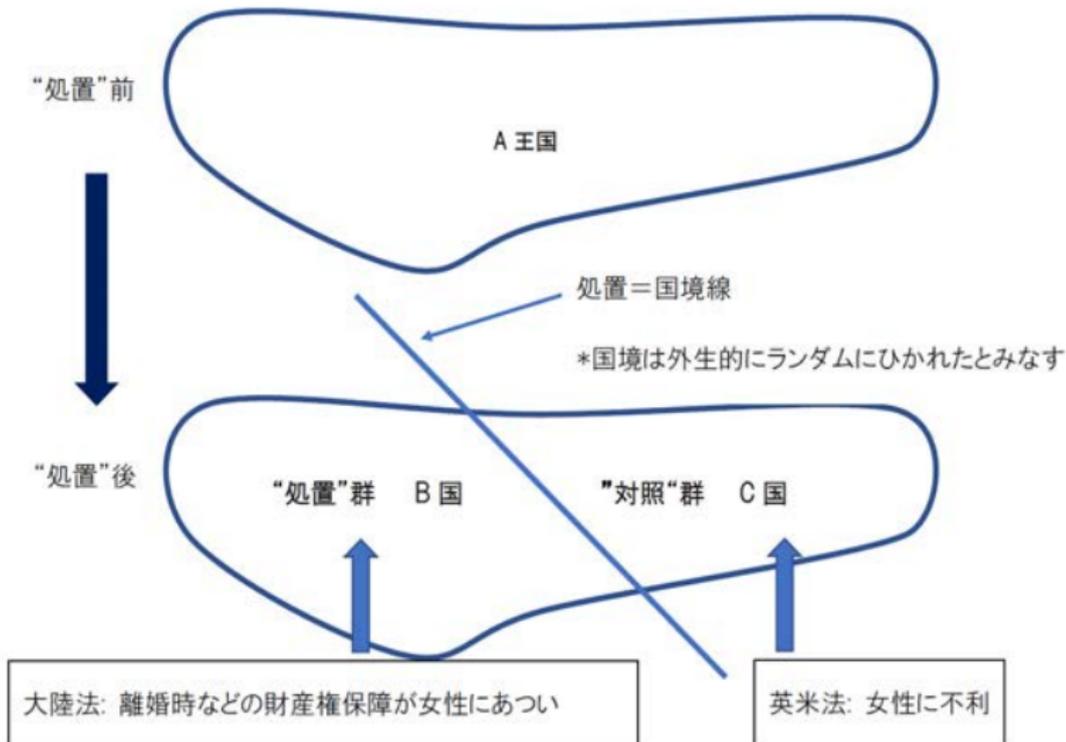
アメリカ大学専攻別による年収中央値 (25-59 歳、2013 年 USD)



出所: The Economic Value of College Majors, Georgetown University
(<https://cew.georgetown.edu/cew-reports/valueofcollegemajors/>) をもとに牧野作成



実際に Anderson (2018)が使ったアイデア



▶ go back

The screenshot shows a web browser window displaying the IDE SQUARE website. The page features a navigation menu on the left with categories like '特集' (Special), '海外研究' (Overseas Research), and 'コラム' (Column). The main content area is titled 'IDEスクエア' and 'コラム'. A prominent yellow banner reads '途上国研究の最先端' (Cutting-edge research on developing countries). Below this, an article titled '第51回 妻が外で働くことに賛成だけど、男のは反対だから断れない' (No. 51: I personally support my wife working outside the home, but I won't let her do so because I believe other husbands are against women working outside the home) is displayed. The author is listed as 牧野 白恵 (Makino Momoe), dated 2021年9月 (September 2021). A '今日紹介する研究' (Research introduced today) section lists a paper by Leonardo Bursztyn, Alessandria L. Gonzalez, and David Yanagizawa-Drott (2020) from the American Economic Review. The browser's address bar shows the URL 'ide.go.jp/resources/Column/20210902_051.html'.



中公新書



ジェンダー格差

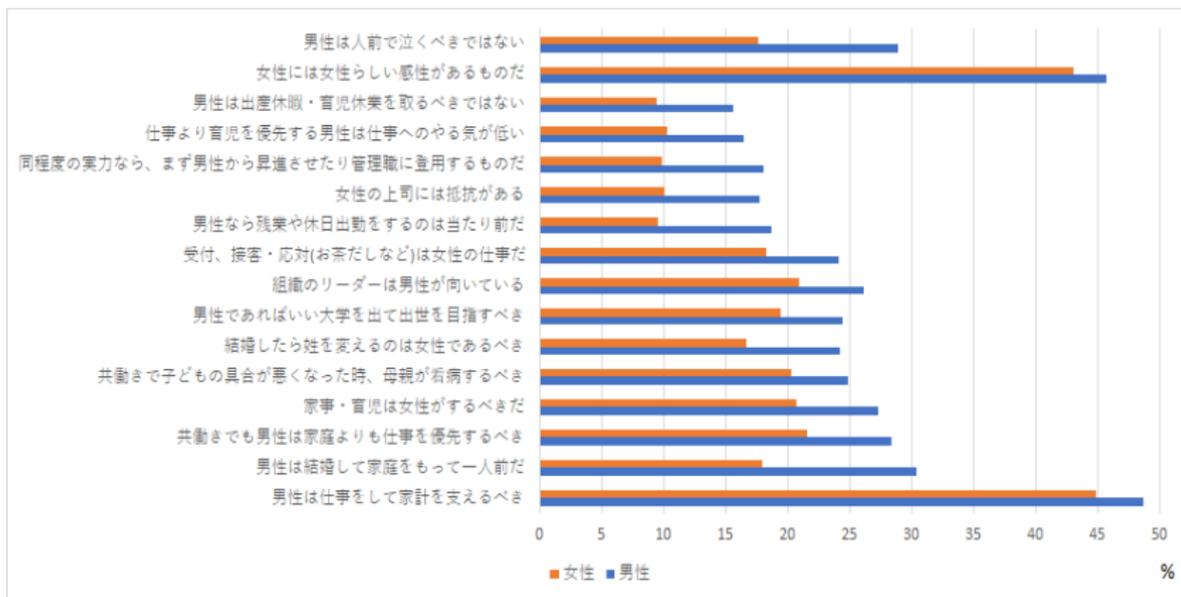
実証経済学は何を語るか

牧野百恵 著

歴史・文化・社会的に形成される男女の差異＝ジェンダー。その差別には近年批判が強く集まる。本書は、実証経済学の成果から就業、教育、歴史、結婚、出産など様々な事柄を取り上げ、格差による影響、解消後の可能性について、国際的視点から描く。議員の女性枠導入＝クォータ制が、質の低下より無能な男性議員排除に繋がる、女性への規範が弱い国ほど高学歴女性が出産するなどエビデンスを提示。旧来の慣習や制度を問う。

書誌データ

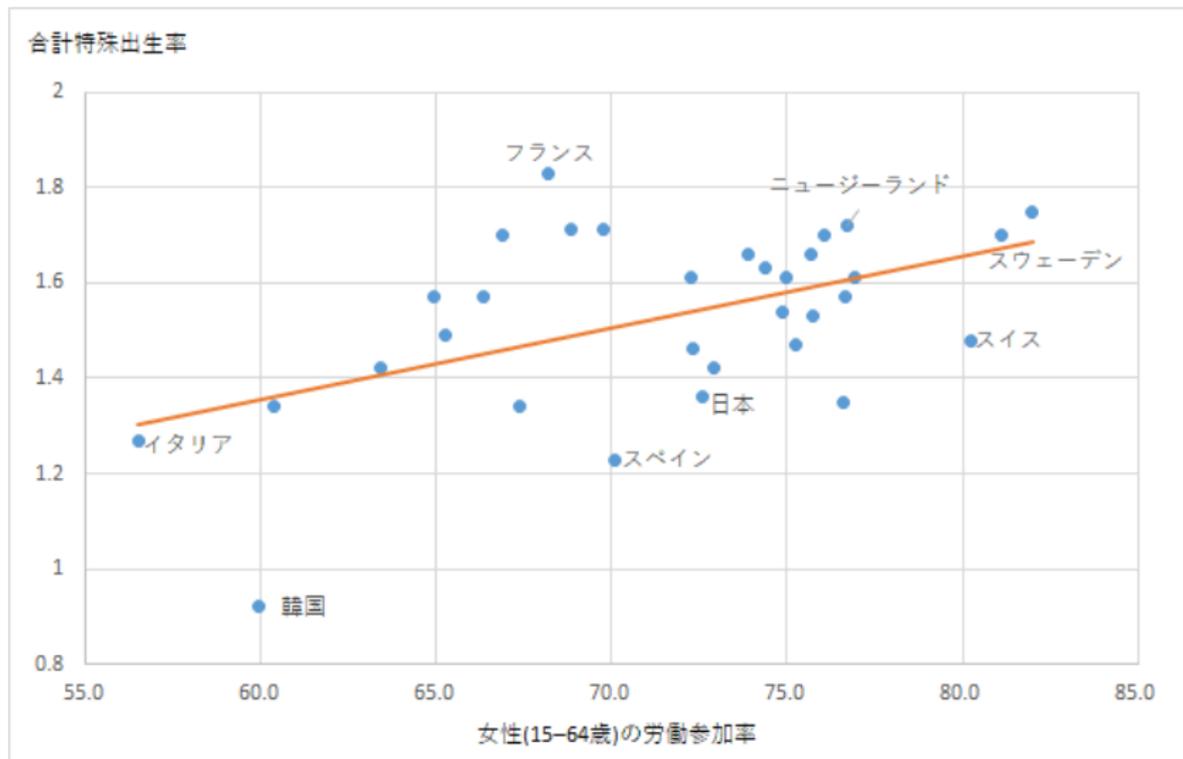
初版刊行日	2023/8/21
刊型	新書刊
ページ数	248ページ
定価	990円(10%税込)



出所: 内閣府男女共同参画局「令和4年度 性別による無意識の思い込み(アンコンシャス・バイアス)に関する調査研究」
 (https://www.gender.go.jp/research/kenkyu/seibetsu_r04.html) より牧野作成

▶ go back

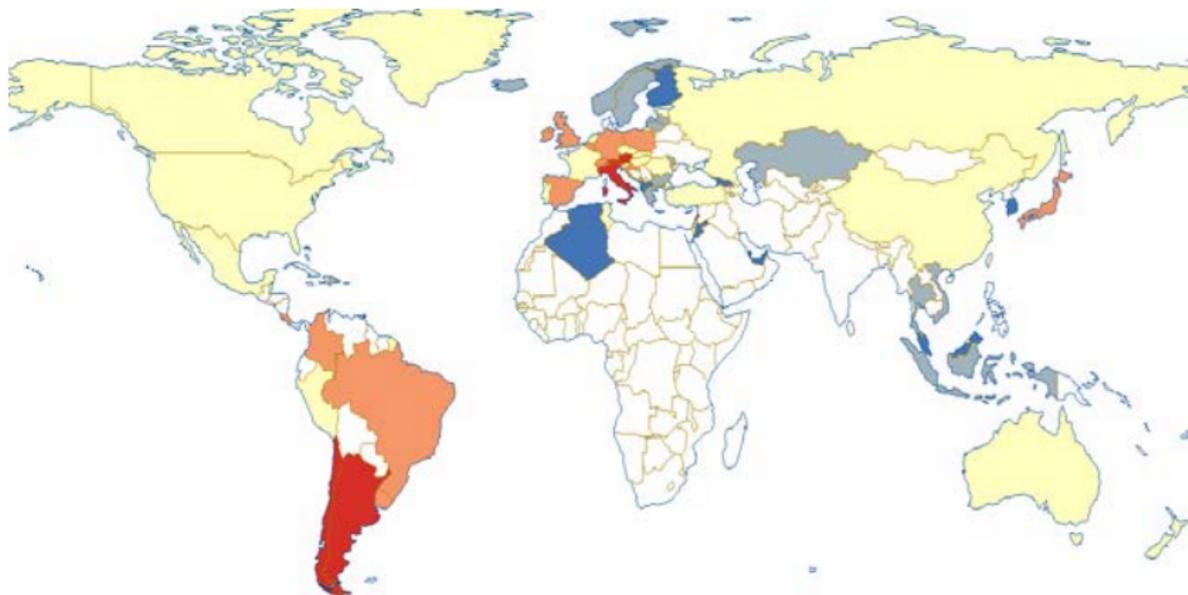
出生率と女性の労働参加率の関係



出所: OECD 統計 (<https://stats.oecd.org/>) をもとに牧野作成

▶ go back

中学生 (15 歳) の数学テストスコア (PISA) の男女格差



出所: 2015 年 PISA データ (<https://www.oecd.org/pisa/>) をもとに牧野作成